



◆生育状況及び当面する重点作業について

管内定点の川中島白桃の発芽は3月14～15日頃、開花が4月3日頃で昨年比11日早い。

果樹試験場では川中島白桃の発芽が平年より7日早く、昨年より12日早い状況となっている。

1. 天候が不安定な場合は、受粉作業を徹底し、結実確保を図る。
2. コンピューターMM並びにスカンバコンを適期に設置する(設置期日は果樹総合情報参照)
3. この時期は、平年並みの降水量でも不足する時期となるため、4～5月は、干天が続くようであれば、15日おきに30mm程度又は10日おきに20mm程度のかん水を行なう。
4. 凍霜害に注意する時期が続きます。報道・情報・指示により万全な対策を実施する。
5. 灰色かび病対策。果柄部にかく片や幼果が入り込むと、灰色かび病の元となる。
結実がよく、摘果が遅れると特に目立つため、除去を徹底する。
6. 以前に配布した「**葉面散布肥料・特殊資材の使い方**」を参考に**葉面散布肥料を有効に活用する**。
総合的な品質向上対策として、アミノ酸等のケルパック66、友果、オルガミン等を利用する。
開花時期が長くなり疲れていそうな樹や、凍害の樹、など樹勢の弱った樹には散布をおこなうと良い。

【もも薬剤防除】

◆第3回薬剤散布について ※開花中であつても散布する。

1. 散布時期…4月13日(木)～18日(火) 実際散布日記入 月 日
2. 調合薬剤・量…水100ℓ 当り

- ┌ アビオン E…100mℓ (固着性展着剤)
- ├ カスケード乳剤…25mℓ (モモハモクリガ・ハマキムシ類)
- ├ ウララD F…25g (アブラムシ類)
- └ アグリマイシン100…66g (せん孔細菌病/収穫60日前まで)(モモのみ使用)

【ネクタリン薬剤防除】 ※もも・ネクタリン混植園

◆第3回薬剤散布について ※開花中であつても散布する。

1. 散布時期…4月13日(木)～18日(火) 実際散布日記入 月 日
2. 調合薬剤・量…水100ℓ 当り

- ┌ アビオン E…100mℓ (固着性展着剤)
- ├ カスケード乳剤…25mℓ (モモハモクリガ・ハマキムシ類)
- ├ ウララD F…25g (アブラムシ類)
- └ マイコシールド…66g (せん孔細菌病)

【もも・ネクタリン薬剤防除共通事項】

1. 散布量…10a当り⇒400ℓ 以上
2. 散布上の留意事項
 - ①アグリマイシン水和剤は、ネクタリンには登録が無いため使用しない。また飛散しないように注意する。

- ②訪花昆虫(ミツバチ・マメコバチ)保護のため、記載以外の殺虫剤使用は絶対にしない。
- ③アブラムシ類の多発が心配される園は、ウララDFを2,000倍(水100ℓ当りに50g)で使用する。
- ④毛じ障害(りんごうどんこ病)、灰星病(花腐れ)、灰かび病の発生が心配される園は、フルーツセイバー1,500倍(水100ℓ当りに66g)またはアンビルフロアブル1,000倍(水100ℓ当りに100ml)を加用散布する。なお、毛じ障害のもっとも重点防除時期は次回第4回となる。
- ⑤固着性展着剤アピオンEに代えてK.Kステッカー3,000倍(水100ℓ当りに33ml)または一般展着剤10,000倍(水100ℓ当りに10ml)でもよい。

【もも薬剤防除】

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期…4月27日(木)～5月3日(水) 実際散布日記入 月 日

※極早生種(たまき・なつき等)がある場合は、収穫が7月上旬より始まる。

アグレプト水和剤は収穫60日前までのため、アグレプト水和剤に代えてマイコシールド1,500倍(水100ℓ当りに66g・年5回・収穫21日前)を必ず使用する。

2. 調合薬剤・量…水100ℓ当り

- アピオン E…100ml (固着性展着剤)
- ⑩カナメフロアブル… 25g (うどんこ病・灰星病)
- アプロードフロアブル…100ml (ウメシロカイガラムシ)
- アグレプト水和剤…100g (せん孔細菌病/収穫60日前まで)

3. 散布上の留意事項

- ①毛じ障害(りんごうどんこ病)の最重要防除時期となる。
なお、結実良く果実が密着していると果面に薬液がしっかりと付着しないため注意する。
- ②カナメフロアブルに代えてストロビードライフフロアブル2,000倍(水100ℓ当りに50g)でもよい。
- ②種有巨峰隣接園は、アグレプト水和剤に代えてマイコシールド1,500倍(水100ℓ当りに66g)を使用する。
- ③早生種は収穫前日数に注意して散布を行う。

【ネクタリン薬剤防除】 ※もも・ネクタリン混植園

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期…4月27日(木)～5月3日(水) 実際散布日記入 月 日

2. 調合薬剤・量…水100ℓ当り

- アピオン E…100ml (固着性展着剤)
- ⑩カナメフロアブル)… 25g (黒星病)
- アプロードフロアブル…100ml (ウメシロカイガラムシ)
- マイコシールド… 66g (せん孔細菌病)

3. 散布上の留意事項

- ①もも混植園は、⑩カナメフロアブル4,000倍(水100ℓ当りに25ml)を加用散布する。
- ②カナメフロアブルに代えてストロビードライフフロアブル2,000倍(水100ℓ当りに50g)でもよい。
- ③マイコシールドに代えてクプロシールド1000倍(水100ℓ当りに100g)+クレフノン100倍(水100ℓ当りに1000g)でもよい。クプロシールドには薬害防止のためクレフノンを必ず加用する。展着剤はササラ3000倍(水100ℓ当りに33ml)がよい。白く汚れやすいので周囲への飛散に注意する。

【もも・ネクタリン薬剤防除共通事項】

1. 散布量…10a当り⇒450ℓ以上
2. アグレプト水和剤は、ネクタリンには登録が無いので飛散しないように注意する。
3. **カイガラムシ防除薬剤(アプロードフロアブル)が入るため、枝・幹等にムラ無く掛かるよう留意する。**
発生が目立つ園は、手散布により薬剤を掛ける。
4. 訪花昆虫(ミツバチ・マメコバチ)保護のため、記載以外の殺虫剤使用は絶対にしない。
5. 固着性展着剤アピオンEに代えてK. Kステッカー3, 000倍(水100ℓ当りに33ml)または一般展着剤10,000倍(水100ℓ当りに10ml)でもよい。

◆灰星病対策について

灰星病は、せん孔細菌病と病斑の症状が似ている。区別がつかなくとも、共に処分する。
症状は満開期頃から見え始めるので、一斉点検を行う。
開花期に「花腐れ」症状となっている部位がある。
発見したら早急に病斑部の切除を行い、切除した病斑部は、焼却処分の実施を徹底する。

◆ほう素欠乏、ほう素過剰(落蕾症)の発生について

①ほう素欠乏

土壌中のほう素が欠乏する事や、干ばつで土壌水分が減少すると、吸収量が低くなり、発生する。
土壌診断の結果、ほう素が欠乏している場合は、施用が必要。干ばつの場合は、かん水を実施する。

②ほう素過剰

花粉の無い品種に多いが、症状は開花前に蕾が枯死、落下、結実不良、生育の遅れとなる。
一度発生した園は、短期的な改善が難しい。

原因は、土壌pHが上昇(主に6.5以上)し、ほう素が過剰でマンガンが低いと発生が高くなる。

当面は、かん水を実施し、結実状況を良く確認、摘果作業を行う必要がある。

今後の対策として発生園で9月に土壌診断を実施(微量要素までの)し、診断結果によって、土壌pH降下資材(ガッテンペーパー)施用や、マンガン施用や葉面散布を検討する。

◆予備摘果の時期と方法(一般的基準)について

①満開後20日頃になると、生理落果する果実は果面の一部が茶緑色になり生気を失う。満開後30日頃までに自然落果する。

②受精果(落果しない)はがく片が基部から離れ萎びてくる。

③予備摘果時期が遅れると果実肥大効果が少なくなり、
果柄が硬くなり取れにくくなる！！

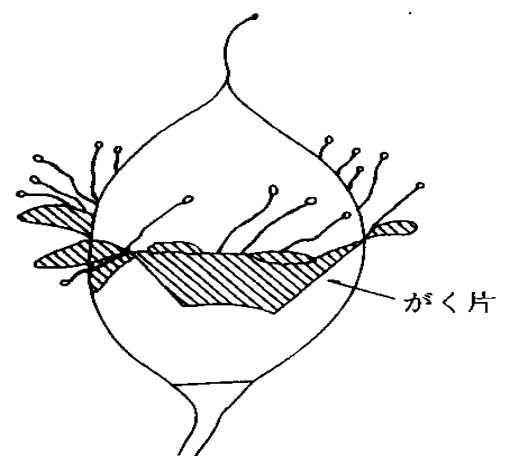
④予備摘果を始める時期の目安は、結実良好品種(白鳳、あかつき、なつっこ等)は、満開後20日頃(5月初旬頃)から。

結実不安定品種(川中島白桃、秀峰等)は、
満開後30日頃(5月上中旬頃)からにする。

川中島白鳳は最後にする。

※以上は、凍霜害被害等の無い通常事の目安です。

結実量が特に少ない場合は、樹勢調節と生理落果の抑制のため予備摘果を減らす。



受精果は、果実が肥大してくると、
がく片が基部から離れ萎びてくる。

受精果

長野県No.1 のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆ももうどんこ病並びにりんごうどんこ病(毛じ障害)について

毛じ障害は、「りんごのうどんこ病」です。毛じ障害の発生は、「あかつき・なつっこ」では、特異的に発生し、「なつき・あぶくま・西王母等」も多い。なお「川中島白桃」では、ほとんど発生が見られない。

りんご園(特に紅玉・つがる・シナノスイート等)の近隣では、特に多発が懸念されるため、注意が必要。

★「ももうどんこ病」の対策

①重点防除時期は、定期防除(5回目)対策薬剤を使用しているの、しっかりと実施する。

★「りんごうどんこ病(毛じ障害)」の対策

①感染時期は、落花期～落花15日後頃までで、それ以降は感染が見られない。

②重点防除時期は、定期防除(4回目)に対策薬剤を使用しているの、しっかりと実施する。

③果皮が既に大きく変色したものや、サビ状になっているものは摘果する。

④被害果が多い場合は、中でも程度の軽い果実や果柄部側(ホゾ側)のものを優先に残し、空枝にはせず、適正着果量を確保する。

★共通

①りんごうどんこ病(毛じ障害)は、後期症状になると、ももうどんこ病との見分けは困難であるため、発生時期・初期症状を把握し、判断する。

②薬剤が果実に掛りやすいよう、結実が良い場合等、果実同士が密着しないよう、摘果しておく。

	もも うどんこ病	りんご うどんこ病(毛じ障害)
発生時期	落花30日頃から	落花15日頃から(満開後20日後～25日頃)
初期症状	白粉をまぶしたような円形の病斑 毛じ内に白粉が観察される 果皮に異常は見られない	淡褐色～褐色の小斑点 毛じは健全 果皮が淡褐色～褐色に変化
後期症状	菌そうは消え、毛じや果皮が褐変 着色期に目立たなくなる 一部でやや凹んだサビ状になる	被害部はサビ状となる 軽微なものは着色に より目立たなくなる

◆せん孔細菌病春型枝病斑の除去をしよう！！

①薬剤防除だけでは防ぎきれない難病害であるため、耕種的防除が重要になる。

②耕種的防除として、春型枝病斑の剪除がもっとも重要になる。できるだけ、早く剪除し感染拡大防止を行う事で、かなり被害を軽減できる。発病は6月までだらだらあるため、2～3回程度に分けて、園内の巡回し病斑切除を行う。

・結果枝をよく見る。花腐れ症状がある、芽の基部周辺が褐色に変わっている、亀裂がある、ヤニが出て いる等を確認し、病斑を確認する。

見つけたら、病斑部より、2～3芽程度多く切る。

・葉に病斑がみえたら、上部、又は周辺部に必ず春型枝病斑が存在するため確認する。

・風当りの強い園や園の外周部は多いので特によく確認する。

・弱い品種「黄金桃」、「白根白桃」、「川中島白桃」、「あかつき」等は注意。



《栽培に関する問合せ》果樹総合情報をご覧ください。

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／生産販売部(本所)：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311